

医療情報システムの相互運用性確保のための対向試験ツール開発事業

平成22年8月

医政局政策医療課(山本要室長) [主担当]

1. 施策体系上の位置づけ

基本目標Ⅰ 安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること

施策大目標3 利用者の視点に立った、効率的で安心かつ質の高い医療サービスの提供を促進すること

施策中目標3-1 医療情報化の体制整備の普及を推進する

2. 事業の概要

(1) 実施主体

相互互換性の検証が出来る団体

(2) 概要

各種医療情報システムの相互運用性を確保することで、互換性の確保及び医療機関におけるマルチベンダ化による費用負担の軽減に資するものである。

3. 事後評価の内容（必要性、有効性、効率性）

(1) 有効性の評価

異なるベンダ間の各部門系システムをコンポーネント化することができ、医療機関内の各システムの普及を阻害する要因である導入費用の削減効果が見込まれる。また、各ベンダにおいても自社で製造したシステムが信頼できるシステムとして一般に公表されるため、医療機関側からの信頼を得ることが出来る。

(2) 効率性の評価

医療情報システムの相互運用性を検証し、ユーザーとなる医療機関等にその結果を公表することにより、医療機関において時間的・費用的に効率的な医療情報システム調達の実施が図られている。

(3) 政策等への反映の方向性

評価結果を踏まえ、平成23年度予算概算要求において、所要の予算を要求する。
(概算要求額：109百万円)

4. 評価指標等

指標と目標値（達成水準／達成時期）						
アウトプット指標		H17	H18	H19	H20	H21
1	相互運用性が検証されたシステム数（単位：件）	—	—	84	81	86
達成率		—%	—%	—%	—%	—%
【調査名・資料出所、備考等】						
・有限責任中間法人 日本IHE協会調べによる。						

5. 特記事項

(1) 各種計画等政府決定等の該当

① 有・無

② 具体的記載

「重点計画2006」（平成18年7月IT戦略本部決定）